

こもれび通信 後期号

児童発達支援センター あすなろ学園 発行責任者：細谷育男

「令和7年度を振り返って」

事務局長 町田正義

春のきざしが感じられる頃となり、今年も退園式を迎える季節となりました。一年を振り返ると親子で遊ぼう集会、秋祭り集会『忍者屋敷あすなろ館』、バスピクニック、クリスマス集会など、子どもたちと一緒にご家族の方も参加していただき、皆で楽しい時間を共有しました。子どもたちの笑顔に包まれて、あっという間の1年でした。そのような楽しい、学園の様子をInstagramの発信により多くの方に見ていただけるようになりました。子どもたちはそれぞれ、個人差はありますが大きく逞しく成長を実感した1年間でした。また、地域支援事業にも力を入れ発達相談、障害児相談支援、カンガルー通園、保育所等訪問支援や巡回相談等、関係機関と連携を図りながら展開しています。

今後も、職員一同、子どもたちとご家族に寄り添いながら支援に努め、関係機関の皆様の連携のもと、子どもたちが豊かに成長出来るように児童発達支援センターとしての役割を果たしてまいります。

「通園の1年を振り返って」

通園課課長

“いっしょにあそぼう！いっばいわらおう！”をテーマに掲げ、保護者の皆さんと一緒に子ども達と向き合ってきた1年。一人遊びで完結してしまう、遊びかけても拒否されたり泣かれたり、そういった時にどう関わったら良いのか戸惑うこともあったかと感じます。そんな中でも、我が子の好きなことに寄り添い「楽しかったね」と共感体験を積み重ねる中で、「もっと」の気持ちを上手に引き出し、頑張った時は「偉かったね」と誉め認めてきた親子通園。何より保護者自身が率先して楽しんでみせている姿は、子どもの最高の笑顔を引き出していたと感じます。

今、大好きな大人を見つけて抱き着きに行く、大人の傍まで行きブランコを指差ししてやりたい気持ちを伝える、「だるまさんがころんだ♪」の声に期待し遊びの輪に加わる、上手くできずに挫けそうな時に「大丈夫！がんばれ！」の励ましに最後までやり通すなど、どの子もいきいきと学園生活を送っています。大人との楽しいやりとりは子どもの成長の支えとなっています。これからも、一緒に遊びあい、いっばい笑いあい、子どもの願いに寄り添った支援を続けていきたいと思えます。

「保育所等訪問支援を通して思うこと」

地域支援課課長補佐

地域支援課で担う支援の1つ、保育所等訪問支援。集団生活への不安や悩みを抱く保護者の要望により、お子さんが通う保育園や幼稚園を月1回訪問し、観察や先生との話し合い、保護者への報告等行っています。

訪問支援では、先生方から学ぶことが多くあります。Tくんを担当しているM先生。「本人が居心地よく集団で過ごせるために、何をすべきか」と常に試行錯誤されてきました。2人きりの虫探しをめいっばい楽しみ、少しでも取り組む姿勢を見逃さず大いに誉め、時には「一緒に待とうね」と動きたいT君を抱き止めて活動に参加したりと、丸ごとTくんを受け止めてきた2年。「みんなで育ち合うクラスにしたい」と願う中、Tくんへの支援とクラス運営の狭間では多くの悩みや葛藤を抱えられてきましたが、M先生と担任の先生の丁寧な連携があったこそ、今、クラスにはいつも温かい空気が流れています。こうした道のりが保護者の安心につながるのももちろんのこと、支援について共に考える時間をいただけることをとてもありがたく感じています。

保育園や幼稚園の先生方と連携させていただく場合は、訪問支援に限らず、巡回相談や園の先生方の紹介による発達相談、発達相談を経て園での様子観察に伺うなど、さらに広がっています。どのような場においても、子どもや親子を中心にした支援の輪を築けるよう、これからも考え続けていきたいと思えます。

特集 親子通園を通して思うこと

家事や育児・仕事など忙しい日々の中、原稿依頼へのご協力をいただいた保護者の方々に感謝いたします。今年度は、退園児の方だけでなく、在園児の方にもお願いしました。一人ひとりの親子通園に対する「思い」を知る大変貴重な機会ともなり、お願いして良かったと思います。

皆さんから紡ぎ出された言葉からは、「親子通園のエッセンス」が学びとれます。「わが子の小さな成長を発見できた」「関わり方を学び、見直すことができる」「同じ不安や悩みをもった仲間と出会い、救いとなった」「一緒に遊びきり、楽しい気持ちを共有できる」「親子で向き合える宝物のような時間」と、心に響くフレーズが綴られています。親子通園は、「発見」「学び」「出会い」「共感」と、ドラマチックで大切な時間だと気づかされます。

一人ひとりの珠玉の言葉を味わっていただき、親子通園の意味を噛みしめていただけたらと思います。

在園児の皆さんより

Iさん(入園1年目)

我が子は歩行や発語がなく、知的障害もあり、運動機能・知能ともに発達は0歳9ヶ月相当の娘です。入園する前は、騒がしい場所や新しいものを見ると泣いてしまったり、慣れない大人に抱っこされると泣いてしまう子でした。そのため、激しい遊びは最初から行わず、まずは遠目から見せて少しずつ慣れさせてほしいことをお願いしていました。

あすなろの先生方はその思いを丁寧に受け止めてくださり、娘のペースを大切にしながら関わってくださいました。そのおかげで、数か月後にはあすなろの環境にもすっかり慣れ、以前は苦手だった騒がしい場所でもニコニコと遊べるようになりました。さらに、初めて会う大人に対しても自分から近づき、抱っこを求めたりするようになりました。

我が子にはいろんな経験をさせてあげたいし、怖がらずに毎日楽しく過ごしてほしい。そんな私達夫婦の願いを叶えてくださり、あすなろには大変感謝いたしております。発達に関してはまだまだ課題の多い娘ですが、これからもよろしく願いいたします。

Tさん(入園1年目)

親子通園では先生や保護者の方と育児の悩み不安を共有することで、私自身も気持ちが楽になったり改めて子どもと向き合う時間で、家では見れない園での新しい一面を発見できる時間です。

我が子は褒められると頑張れるタイプなので園では先生方がたくさん褒めて伸ばしてくださり、ほぼ全介助だった食事の介助も減り、食具を使って自分で食事ができるようになったり着替えも頑張ったりしています。まだできないこともたくさんありますが、本人も出来ることが増え自信がついてきているようで以前はできないとすぐ諦めていましたがやってみようと思欲的に取り組んでいるように思います。

園に通うまではついつい出来ないことに目がいってしまいこれからは心配だなと不安の中育児してきましたが、たくさん褒めて小さな成長を見つけながら育児していこうと感じました。



Tさん(入園1年目)

入園したばかりで期待と不安が入り混じる中、親子通園での日々は、園での活動を間近で見守ることのできる貴重な時間となりました。日々一緒に過ごす中で見える成長だけでなく、先生方からの目線で「こんなことができるようになりましたね」と声をかけていただくことで、親の目線だけでは気づかなかった新しい一面を知ることができました。

子供の向き合い方についても、やりたい気持ちを我慢させるのではなく、可能な範囲で少しでも経験させることで満足して次の活動へ切り替えやすくなるという関わり方を学ぶことができました。

また、一生懸命に、全力で子供たちと一緒に遊んでくださる先生方の姿には、驚きとともに感謝の気持ちでいっぱいです。このような環境の中で過ごせたことを嬉しく思うとともに、親子共々、実りの多い時間を過ごすことができました。

Kさん(入園1年目)

学園に入園して早いもので、一年が経過しようとしています。月に三回程あった親子通園を通して、親子共々大変充実した時間を過ごせました。自宅では経験出来ない様々な遊びによって、身体的な成長に驚かされたり、先生方との関わりの中で、自宅では見られなかった一面があったり、同じクラスの保護者の方々との交流によって、不安な気持ちや悩みを共有でき、心が軽くなったり励みになりました。家では余裕がなく我が子との向き合い方も雑になりがちでしたが、親子通園の時は、全力で向き合うことができ、楽しい時間を過ごすことができ、嬉しかったです。先生方からは、様々なアドバイスを頂くこともでき、不安なことや気になることも相談でき、大きな支えとなってくださり、大変感謝しています。これからも親子通園を通して、我が子との楽しい時間を大切に、課題を見つけて少しでも出来ることを増やし、親子共々成長していきたいです。一年間ありがとうございました。

Mさん(入園1年目)

4月に入園してからもうすぐ1年が経ちます。今まで保育所などを利用したことがなかったため、母子分離できるのか、集団生活に馴染めるのかと心配はありましたが、先生方に毎日明るく出迎えていただき、楽しそうに通園しています。

親子通園では、今まで知らなかった子供の一面を見ることもありました。

朝、学園に着くと先生方に握手やタッチで挨拶して回る。クラスの子と一緒に楽しそうに走り回ったり手を繋いで笑うこと。家では嫌がって食べない野菜に挑戦して先生に褒めてもらおうと嬉しそうな表情をすること。子供の新しい一面を見ると成長を感じるすることができました。

療育って何だろう？と勉強不足のままカンガルー通園からスタートしましたが、今思うのは療育は特殊なものではなくて、子供が苦手な事に気付き理解をしてサポートをしたり、好きな事・得意な事を伸ばしていくために必要なより一層の工夫なのではないかということです。

来年度も子供の「楽しい」「できた」という気持ちを大切にしながら、色々な経験を積んでいけたらと思います。

Iさん(入園1年目)

親子通園を通じて、子どもが少しずつ変化していく成長を感じました。教室から目に入るのは広々とした園庭です。開放感があり綺麗な校庭で思いきり体を動かせることで外遊びを楽しみ、以前は怖がっていた滑り台も、今では自分から階段を上り、笑顔で滑れるようになりました。その姿を間近で見られることは、親にとって大きな喜びです。また、学園に通うようになってから、夜は早めに寝るようになり、睡眠のリズムが整ってきました。親子通園により、色々な療育の方法を学べたことと、先生と他の子どもとコミュニケーションが取れ、そのことも子どもにとって多少なりとも影響を与えていると感じています。最後に親子通園は大切な時間だと実感しています。

Nさん(入園1年目)

4月から入園して初めの頃は、教室でゴロゴロしていることも多く、なかなか活動しているところが見られなくて、行ってもつまらないな、なんて思うこともありました。のちに体調が悪かったなどの原因も分かりましたが、体調が良くなってから見違えるように元気になり、別人のように活発になりました。学園に行かないと見過ごしてしまうような、小さな成長もたくさん発見しました。手を使わずに階段を登れるようになっていたり、腰より高い段差をよじ登っていたり、初めて見た！ビックリ！なんてことがよくありました。

親子通園で私が一緒にいても平気で離れて、先生に“高い高いして”や、抱っこでトランポリン、手を引いて要求する様子もたくさん見られました。私とでなくても、もうちゃんと学園の先生と信頼関係ができていて、言葉は無くともやってほしいと要求できていることにとっても成長を感じました。活発に動いてくれるようになってからは、今日はどんな様子が見られるか親子通園も楽しみにになりました。

最近では学園の駐車場から学園まで歩けたことが本当に嬉しくて、ずーっと抱っこばかりだったのにたくましくなったものです。

親子通園は親にとっても集中して子どもと向き合える時間で、家だと家事に追われて疎かになってしまったり、効率重視で流してしまっていることも、学園で先生と一緒に様子を観察したり、動きや声掛けを試したりするので、普段の私自身の行動を正すためにも大切な時間だと思っています。

Nさん(入園1年目)

入園して最初の週は、毎日親子通園でとても疲れた記憶があります。

最初の週以降は月3回の親子通園になり、今では親子通園を楽しめるようになりました。たまにたくさん動く日もあるので、次の日は筋肉痛になります(笑)

先生方は、とても親切でこどものことで困った出来事があればすぐに相談に乗っていただけていつも助けていただけています。

子どもが今まで出来なかったことができるようになると、先生が教えてください。「できるようになりました!!お母さん、見てあげてください!!」と先生に言われ、実際にやらせて出来るようになっていくと成長したことが嬉しくて泣きそうになります。先生も同じ熱量と一緒に喜んでくださり、とてもありがたいです。

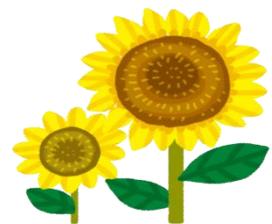
今後も先生やお友達となかよく遊び、楽しく過ごせていけたらと思います。

Fさん(入園1年目)

親子通園を通して、息子が社会性を育む様子を間近で見ることが出来て、あすなる学園の先生方に感謝をしています。

一番最初に仲良くなったのはY君でした。園庭やプレイルームで何度も手をつないで遊んでいました。続いて仲良くなったのはR君でした。R君のやっていることに息子は興味津々で、あらゆる行動を真似しました。最後に仲良くなったのはKちゃんでした。学園に向かうバスの中で、Kちゃんが息子に隣に座るようにリクエストをしました。左隣は既にY君が座っていたので、通路を挟んで息子が座り、私は初めて窓側に座りました。そして、Kちゃんの靴下に描かれているみかんをY君、Kちゃん、息子、私、同乗しているK先生の皆で食べる真似をして、美味しいと言いました。息子もそのみかんを受け取って食べる真似をして美味しいと言葉にしました。

このように、何人ものクラスメイトと仲良く遊んでいる姿は感動ものでした。



Nさん(入園1年目)

親子通園を通して、子どもの成長を身近に感じることができています。

入園した頃は、気持ちの切り替えがうまくいかず、どう関わればよいのか悩むこともありましたが、学園で行っている「十秒数えたらおしまい」を家庭でも取り入れてみると、少しずつ切り替えができるようになり、穏やかに過ごせる時間が増えてきました。

ブレイルームでの遊びは、ただ楽しいだけではなく、体を動かすことや感じることを大切にしている、遊びの中に学びがあるように感じます。

家では歌や踊りを元気いっぱい楽しんでいますが、学園では周りの様子をよく見ながら、落ち着いて過ごしている姿が印象的でした。学園での遊びを家でもやりたがることもあり内容を共有できることで、子どもが嬉しそうにしている様子を見ると、親子通園は親にとっても学びの多い大切な時間だと感じます。

Oさん(入園2年目)

親子通園で、普段自宅ではできない遊びと一緒に体験したり、様々な活動に参加して、娘が色々な事に挑戦して頑張っている姿や楽しむ姿を見ることができました。1人で遊ぶのもいいけど、大人やお友達と一緒に遊んで遊ぶ事で遊びの幅がどんどん広がってきています。

気持ちが崩れてしまった時は、どんな関わりをしたらいいのか…と悩んでいましたが、先生も一緒に考えてくださって娘と向き合うことができました。笑顔が少なく、ほとんど目が合わなかったのですが、今ではニコニコたくさん笑うようになり、しっかり大人の目を見て手叩きやカードを使って要求している姿に成長を感じました。

学園での生活もあと1年となりましたが「一緒に遊ぼう！いっぱい笑おう！」で楽しく過ごせたらと思います。

Kさん(入園2年目)

今迄は自分がおもちゃ等を使いたい時は、使いたいという気持ちが大きすぎて我慢ができなかったのが、最近では、いじけることもあるけど待つことができるようになってきたり、絵本が好きではなかったけど先生が絵本の読み聞かせをしてくれていて興味を持ったのか、本屋さんに行くと我が子が気になる絵本を見つけて『この絵本買って』と言うようになり、その絵本を購入して家に帰ってすぐに『絵本を読んで』と言ってくるようになりました。色々な事や物に興味が出てきたと思います。親子通園では、家とは違う姿が見られてとても嬉しく思っています。

Kさん(入園2年目)

今年度の親子通園を通じて、学園で過ごす我が子の姿を、家庭での様子とはまた違った一面として見る事ができました。家庭では甘えが出てしまうことも多いのですが、学園では先生の指示に従う姿が時々見られ、お友だちと関わりながら遊ぶ姿や、お友だちを意識する様子が見られ、成長を感じ、大変感激いたしました。

また、親子通園という形で、親と子が一緒に保育に参加する中で、子どもの成長を目で見て、耳で感じ、肌で実感することができました。

さらに、他の保護者の方々との関わりを通して、子育てへの思いを共感し合える場面も多く、心強く、温かい気持ちになることがたくさんありました。

そして、他のお子さんたちとの触れ合いを通じて、心と心が通じ合う瞬間を数多く経験し、とても有意義な時間を過ごさせていただきました。

このような貴重な時間を与えていただき、親子共々充実した日々を送ることが出来ました。

本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。



Kさん(入園1年目)

親子通園は、行く度に我が子の成長を肌で感じられて「え！こんなことできるの！？すごい！」と毎回驚きと嬉しい発見があります。何よりのびのびと息子のペースで過ごせていて、そんな環境のおかげでこの一年で息子の表情が本当に豊かになりました。大好きなトランポリンや追いかけっこで思う存分走り回り、とにかく楽しそう！

そんな息子の姿を見られるのは嬉しいですし、息子の笑顔が見たくて、私も思いきり一緒に遊びました。

あんなに悩んでいた一年前の自分。

息子がただただ楽しそうにしているだけで、私自身も穏やかな気持ちになれたのは、ありがたいことに先生方や保護者同士、我が子の成長と一緒に喜んでくれる人がたくさんいるからと思います。

こんなにも我が子とじっくり向き合うことができる親子通園は楽しいですし、降園後はイオンに行って、大好きなマックでおやつを食べ、上の子が帰るまでデートをするのがルーティンになり、二人の時間を大切にする日になりました。

Nさん(入園1年目)

親子通園で感じたことは、子供を近くで見ることができてとても幸せです。他の子どもの親と友達になって話しかけて楽しいです。子供も毎日良くなっていると感じます。先生たちも優しくアクティブです。親子通園は忘れられない思い出となります。

Mさん(入園1年目)

This was my first time attending the Child and Parent Day, and I truly enjoyed the experience. It made me very happy to see my child's progress—what my child can now do independently, how much my child enjoys school, and how learning is happening little by little. Seeing my child happy and communicating with other children was very heartwarming.

I also appreciated the opportunity to talk with the teachers and other parents. Parent Day is special because it allows us to see our child's growth, daily activities, and positive changes.

Thank you very much to the teachers for always guiding, supporting, and taking good care of my child. I am truly grateful.

初めて親子通園に参加し、とても楽しい時間を過ごすことができました。自分でできることが増えたり、学園をどれくらい楽しんでいるのか、どのように学んでいるのかなど、わが子の成長も見られてとても嬉しかったです。他の友達と楽しそうにコミュニケーションしている姿も、とても心温まるものでした。

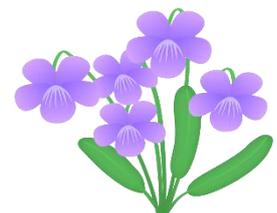
また、先生や他の保護者の方とお話する機会を頂けたことも感謝しています。親子通園は、子ども達の成長や日々の活動、前向きな変化を見られる特別な機会だと思います。

先生方、いつもわが子を支え、大切に育ててもらい、本当にありがとうございます。

Kさん(入園2年目)

親子通園を通して、家ではわからなかった成長の喜びを感じることができました。最初不安や戸惑いが前面に出て親子通園のたびに抱っこばかり求めていましたが、リズム体操などできることが増えてきました。できないことに目を向けるのではなく、出来た小さな一歩を認めることが大切だと感じました。また、同じ立場の保護者のかたと悩みを共有し、支え合う大切さを学びました。

子供の成長はその子によって違うので、あせらず自分の子供をなるべく理解して、共に成長していこうと思っています。



Yさん(入園2年目)

2年目になり、わが子にとってあすなろ学園が楽しいだけでなく、安心して自分の気持ちを出せて、自発的に頑張ってみようと思える場所になったと感じています。

言葉でうまく伝えられないので、先生やお友達にどうすれば自分の気持ちが伝わるか、試行錯誤している姿が微笑ましくも、それは嫌だなと思う行動をした時には、私もどう声をかけたらうまく伝わり、気持ちを発散させて折り合いがつけられるのか分からず、いつも迷ってばかりいます。

それでも、先生方や他の保護者の方が嫌な顔せず手伝ってくださるので、失敗してもいいと思えたり、自分自身の考えや関わりを見直すきっかけをたくさん与えてくれて、いつも感謝しています。

私が親子通園を楽しめる日もあれば、大変だなと感じる日もありますが、うまくいかないことも行く度に少しずつ変化があり、毎日頑張っているんだろうなと想像しながら、次はどうなるかな?と楽しみにしています。

Uさん(入園1年目)

半年間のカンガルー通園から引き続いて、あすなろ学園に通うようになり1年弱が経過しました。我が家は下の子がまだ小さくママっ子のため、父親である私が親子通園に参加しています。入園前はバス通園ができるのか?通うのを嫌がらないか等、色々な思いがありましたが、実際に通い始めると、嬉しそうにバス停へ向かうようになり杞憂に終わりました。

また、通い始めた頃と比べると、大人や同じクラスの子への接触も増え、笑顔で園庭を駆け回ることも増えました。朝の会でも入園当初は座ってられないことが多い我が子でしたが、今では先生の読む絵本に注目できることも多くなりました。

月に3回程度の親子通園に行く度、直接先生方から様子を聞くことができ、また出来ることが増えているのを目にすることができるのは親子通園の醍醐味ではないかと思います。

あともう1年、あすなろ学園での時間があると思うと成長が楽しみです。

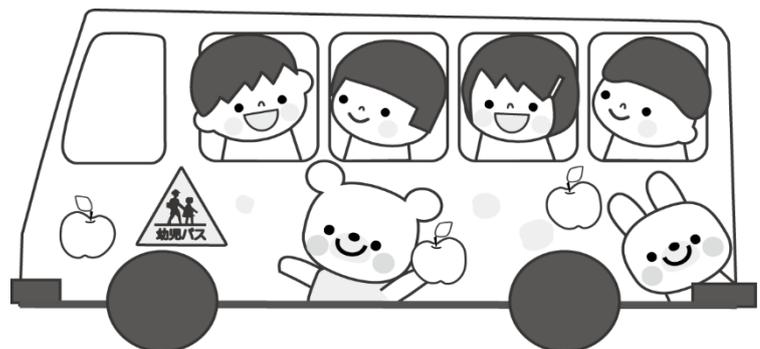
Mさん(入園2年目)

この1年で、息子は少しずつ、自分なりのペースで変わっていきました。目が合うことが増え、大人に対して自分の欲求を、言葉と手を使ってうまく伝えられるようになってきました。何より1年で発語が増えて驚きました。また、遊びの終わりの切り替えも以前よりスムーズになり、「おしまい」にするまでの時間が短くなってきていると感じます。

言葉や行動の大きな成長だけでなく、ふとした表情や関わりの変化など、親の私では見逃してしまっていた小さな「できた」を先生が沢山見つけてくれて、親の私も気づかなかった成長を知れて嬉しかったです。

遊びのバリエーションも沢山増えて親子通園の時に、見てこんな事もできるんだ、こんな事を楽しいと思って遊べるようになったんだなと感じることがありました。

1年間ありがとうございました。



退園児の皆さんより

Yさん(在園3年)

肢体不自由で思うように動けず、やりたいことがあるのに言葉でも上手く伝えられないわが子にとって、あすなる学園での生活はどんなものになるのだろうと不安だった入園当初。それから3年が経ち退園を控えた今では、「ちょっと静かにしようね」とこちらが思わず言うってしまうほどおしゃべりが大好きな子になりました。

1時間近く乗る学園バスはちゃんと乗れるだろうか、と心配したのはこちらだけで、本人はバスが大好きになり、「きょうのバスはせんせいだれかな?」「おおきくなったらバスのうんてしゅさんになりたい」と楽しそうに話してくれるようになりました。

広い廊下で歩行器に乗って歩いたり、顔や体を絵の具だらけにして遊んだり、学園でなければできないことをたくさん経験させてもらいました。年長での「親子で遊ぼう集会」のサーキットでは最終走者、みんなの声援を受け先生に支えられながら一步一步ゴールに向かうわが子の後ろ姿は、3年間の様子が思い返され少し遅しく見えました。

Oさん(在園3年)

わたしの子はカンガルー通園からの始まりでした。あまり覚えていませんが当時は他の子が居るだけで離れず誰かが泣けば泣き、歩くのもおぼつかない感じでした。ただただ色んなことに対して不安があったのを覚えてます。

学園に入ってから最初は馴染めないかなと思っていましたが先生方がうまくサポートしてくれて同じクラスの他の子に対しての人見知りが少なくなった気がします。

わたしがいなくてもひとりでスタスタ歩いてくれる、最近では道路も歩いてくれるようになって嬉しい限りです。身体の使い方も上手くなってきて、最初は大人頼りな使い方だったのが自分軸になってきました。転ぶ時にも手を出してくれます。

喜怒哀楽もはっきりしてきて、喋れなくてもなにかを伝えたい!って気持ちがわかるだけでこんなにも嬉しいんだと。スマホを落とされて壊されたりたまごを割って台所が大惨事になったり…いたずらにも困りますが「これも成長だね」って言っていただいてからそれすらも愛おしくなりました。

家庭内の事で学園の先生方には沢山ご迷惑をおかけしてきました。今でも困らせてしまってると思います。こどもだけでなく、親にも親身になってくれてわたし自身とても救われてます。本当にありがとうございます。世間的には良い母親とは言えないと思いますが、息子にとって安心していられる存在ではありたいと思っています。

Kさん(在園1年7か月)

我が子が入園したのは、年中の年の9月でした。入園前の悩みの一つは、左目の視力がほぼないので遠近感がとりにくく、更に両足首の動きに固さがあるので立位でのバランスをとりにくいため、恐怖心がとても強く遊具で遊ぶことも家以外で歩行することも嫌がり、常に抱っこを要求することでした。入園前はリハビリや小規模保育園に通っていましたが、恐怖心を取り除くには大人の力だけでは限界があると感じ、沢山のお友達から学べる環境に入れた方がいいかと思い入園するに至りました。学園ではお友達が楽しそうに遊具等で遊ぶ姿を毎日みられ、また全身運動のリズムでは体幹を鍛えられ、先生方も声掛けを常に工夫してくださったお陰で、始めは芝生で転んだり、少しの傾斜でも前に進めず後ろに下がっていたのに、気がつけば園庭やホールを小走りだけど走りまわり、楽しく遊ぶお友達につられて怖がりながらも遊具で遊ぶ姿を沢山みることができました。今のクラスになってからは、息子がお友達を引き連れて遊具で遊ぶ姿もみられました。親子通園時に私が遊具に誘っても全身で拒絶するので虚しい思いもしましたが、先生方の工夫とお友達パワーの偉大さをとても感じた学園生活でした。ありがとうございました。

Tさん(在園1年)

周りの方の手助けのおかげで年長からあすなろ学園に入園しました。

最初は初めての集団生活に心配していましたが、入園してから「Mちゃん本当に表情が豊かになったね」と言われることが増え、私自身も表情の変化には本当に驚くほどで、当初の心配なんてあつという間になくなっていました。

それどころか、入園するまでの約5年間ずっと一緒に過ごしてきたけれど、もしかしたら娘自身の可能性を狭めてしまっていたかな、成長の機会を奪ってしまっていたかな、もっと早く通わせてあげればよかったなと反省しています。

親子通園ではたくさんの先生、親御さんとの関わりを大切にしてきました。日常の話や育児の悩みなどを共有したり、私では気付けなかった娘の少しの変化や、素敵なところを改めて気付かせてもらえました。できることはまだ少ないけれど、先生やお友達のおかげで少しずつ確実に成長している娘の姿を親子通園では感じることができました。

親子通園は今まで孤独に育児してきた私にとってかけがえのない時間になりました。

たった1年でしたが、私も娘もとても成長できた忘れられない濃い1年になりました。

ありがとうございました。

Tさん(在園3年)

入園当初は笑うことも少なく、自分から行動することもなく、周りの様子を伺っておとなしく過ごしていた我が子でした。途中から急に殻を破って、自分から先生に声をかけたりお友達と遊んだり、楽しそうな姿が見られるようになりました。取られっぱなしだったおもちゃも、取られまいと絶対におもちゃを離さないようになり、お世話好きでみんなのかばんを配ったり、自分の気持ちを態度に出せるようになりました。

運動面でもこの3年間でだいぶ体がしっかりしたと思います。リズムの療育も、音で動きを覚える我が子に最初はとても驚き、こんなこともできるんだなあ！と新しい発見でした。

今は「イヤ」「ヤダ」を口ぐせのように言う我が子に困り果てる日々ですが、この先も色々な経験を通して実になりますようにと願うばかりです。

関わってくださった全ての皆様に心から感謝いたします。ご支援と学びを本当にありがとうございました。

Hさん(在園3年)

我が子は、知的障害のある自閉症です。

最初に、あすなろを訪れた際、K先生がすぐに息子と打ち解けました。

とても気難しい子なのに、スゴイなと思いました。

年少のころ、母子分離が出来ず毎朝下駄箱で泣いていました。

ストローマグでしか飲めなかったお茶も、コップで飲めるようになりました。

カレー、お魚、お肉、パンも食べられるようになりました。

発語も、出てきました。

オムツが外れ、パンツで日中は過ごさせています。

ゆっくりですが、着替えも自分で出来ます。

全部、先生方のお陰です。

根気強く教えてくれました。

カンガルー通園から4年間大変お世話になりました。

先生方、ありがとうございました。



Tさん(在園3年)

親子通園では、娘がやってほしいタイミングで遊ぶこと、娘の変化を見ること、先生が教えていることを見ることを大事にしてきました。

最初の頃は呼んでも知らん顔だった娘が、喋れなくても呼ぶとこちらの顔を見るようになったり、“ヤッテ”と要求することが増えたり、「捨てて下さい」と伝えると大好きなじゃがりこの袋をゴミ箱に入れられるようになったり、学園のルーティーンを覚えたり、できることが増えました。とても成長したなあと思います。

Uさん(在園3年)

通い始めた当初は、言葉がゆっくりで、オウム返しやYouTubeなどで覚えた英単語での短い会話が多かったわが子。走ったりジャンプしたりするのもあまり得意ではなく、ちょっとした段差もお尻をついておっかなびっくり下りていました。

年少から3年間、たくさんの友達や先生と楽しく毎日を過ごす中で、少しずつ自分の気持ちや感情を伝えられるようになり、家庭内での会話もとても多くなりました。園庭やプレイルーム、サーキットでいろいろな身体の使い方を体感する中で、走ったり投げたり弾んだり、身体を動かすのが大好きになり、上の子と動物園に行っても、駆け出す兄を追いかけて自分の足で最後まで見て回れるくらい体力がつかしました。

親子通園では、好きな遊びを楽しんでいる姿や、初めてで苦手だけど頑張っている姿、想いまでも一緒に感じる事ができる大事な時間でした。「嬉しい!」「悔しい!」「悲しい!」等、様々な体験を通して、少しずつ心が育っていくその瞬間を親子でたくさん共有することができたと思います。本当にありがとうございました。

Sさん(在園3年)

The change I see in my son in asunarogakuenn is that he has learned to say when he wants to use the toilet to pee. I also see him tidying up his own things before class ends, like putting his cup in his bag. He has also learned to say “Chō dai” when he wants to get something that he can't reach. He has also learned to put on his own socks and shoes.

あすなろ学園での息子に見られる変化は、トイレに行きたい時に「おしっこをしたい」と言えるようになったことです。コップをバッグに入れるなど、自分のものをきちんと片付けるようになったのも分かります。また、手が届かないものを取りたい時は「ちょうだい」と言えるようになりました。靴下や靴を自分で履けるようになったのも、成長を感じます。

Kさん(在園3年)

この子は違うな、と思ったのは子育てを始めて間もなくのことでした。早く会話をしたくて話しかけてもママ!という一言すら聞くことができず、興味があるのは外国語の動画と公園のレンタサイクルのタイヤでした。

いつもの公園で「こんな子は連れてこないで」と言われた時、怒りも悲しみも感じずに2人で帰ったのを覚えています。ぼんやりと毎日、迷惑をかけないようにだけを考えて生活をしていました。

あ、しんどかったんだなと思えたのはあすなろ学園に入園してしばらくしてからのことでした。

何とかしなくてはの一心で学園に電話をした日、どうしようもなく息子と離れたかった日、3年間でたくさん助けていただきました。わからないことだらけで始めた療育でしたが、あの頃が嘘のように親子で毎日穏やかに過ごせています。

今でも親子通園に行くたびに、新しいことができていく姿は信じられない思いと喜びが入り混じる不思議な感じがします。

先生から聞いたよ!と声をかけた時の恥ずかしそうな誇らしそうな息子の笑顔が大好きです。

3年間、親子共々支えて下さり、本当にありがとうございました。

Sさん(在園2年)

あすなろ学園へは年少の時はカンガルーに通っていて、通園は年中からでした。娘はカンガルーの時は砂場が大好きで、ほとんど砂場で1人遊びをしていました。目もあまり合わず、言葉も出ず、要求は大人の手を持って行く形でしてました。それが今は1人遊びの時間がとても短くなり、構って欲しい時間が増えました。目もよく合い、私に伝えたいという気持ちが強くなりました。言葉も手振りから「ちょーだい」、「とって」と、伝えることが多くなりました。最初に比べて、とても成長したと感じます。親子通園では先生方の子供への接し方や、考え方を見て、家でも実践することを心がけてました。いただいたアドバイスも必ず夫婦で共有して、実践するようにしました。あとは親子通園の時間は全力で娘に集中して、一緒に楽しむようにしてました。

Hさん(在園2年)

入園当初、息子は落ち着きがなく、気持ちの切り替えも苦手で、集団の中でどのように過ごせるのか親として不安な毎日でした。思い通りにならないと感情があふれ、どう関わればよいのか分からず悩むことも多くありました。

親子通園の時間は、そんな息子の様子を間近で見ながら、先生方の関わり方を学ぶ貴重な機会でした。小さな変化を見逃さず、丁寧に寄り添ってくださる姿に、親である私自身が何度も救われました。

特に成長を感じたのは、少しずつ自分の気持ちを言葉で表せるようになってきたことです。気持ちを伝えられるようになるにつれ、活動の切り替えもできる場面が増え、集団の中でも安心して過ごせる時間が増えていきました。

親子で向き合ってきたこの時間は、私たち家族にとってかけがえのない宝物です。これまで温かく支えてくださった先生方に、心より感謝申し上げます。

Aさん(在園3年)

今では「毎日元気いっぱい！人と関わることが大好き！」な娘。朝食に昨晚と同じものを出すと「またこれ？」と一丁前に不満を漏らすほどですが、入園当初は言葉が出ず、意思疎通ができないもどかしさからトラブルも絶えず、毎日目が離せませんでした。周囲に相談しても、娘の「あるある」は周囲とは違うのだと痛感するばかりで、次第に人と関わることさえ避けるようになっていました。

そんな中、娘の「ありのまま」を話せたのがあすなろ学園でした。娘の良い所や頑張りを丁寧に見つけて伝えてくださり、どんな些細な悩みも我が事のように一緒に考えてくれる先生方の温かさに、私は何度も救われました。親子通園で、苦手なことにも周囲の声援を受けて懸命に取り組む娘の姿を見た時は、成長を感じて胸が熱くなりました。

あすなろ学園は私たち親子の心の拠り所です。これまで支えてくださった皆様、お友達に心から感謝しています。ありがとうございました。

Hさん(在園2年)

入園当初は環境の変化に戸惑いが大きく、集団行動や気持ちの切り替えが難しい場面も多く見られましたが、日々の学園生活を通して着実な成長を感じています。

先生方が子どもの特性を理解し、安心できる関わりを続けてくださったおかげで、今では登園時の不安も減り、自分から学園に向かう姿が見られます。

言葉や行動で自分の気持ちを伝えようとする場面も多くなり、友だちや先生とのやりとりを楽しむことや学園で知った絵本・遊具などを自宅でも繰り返し行うことで、小さな成功体験を積み重ね、自信を持って行動できるようになってきました。

学園と家庭との連携が子どもの可能性と成長力を高めていると強く感じています。

これからも、さらなる成長を支えていきたいと考えています。

Tさん(在園1年)

息子は年長の年で私立幼稚園から転園してきました。

行事や集団行動、苦手なことへの挑戦に苦しみ、暑さや疲れから怒りが爆発し、自信を無くして自己肯定感が低くなっていました。

転園後は、予想外の苦手なことや得意なことに気づき、困りごとの原因も徐々に分かってきました。日々の活動で体力が付き、1年間行き渋りもなく、皆さんの協力で自宅以外のトイレでうんちができるようになり、大きく成長しました。

親子通園は親子共に大きなメリットとなり、一日中園活動に向き合える環境は他では難しく、幼稚園時代では見つけてあげられなかった繊細な部分に踏み込めたかなと感じています。様々な特性の子供や先生との関わり合い、専門家の先生方との貴重な会話を通して、多くのことを学びました。

基本根明な彼は、担任の先生をはじめ、あすなろ学園の先生みんな大好き！一目惚れした先生には媚び媚び、人見知りやしつつも他クラスのお友達もできて嬉しい！と楽しさが伝わってくる1年でした。

親子で悩んで決めた引っ越しと転園でしたが、「あすなろ学園が1番好き！」の言葉を聞いて、とても良い結果だったと感じています。

1年と短い時間でしたが、ご縁に感謝しています。

Kさん(在園2年)

今年、年長の年にあたる息子は、昨年度から、あすなろ学園にてお世話になっております。入園したての頃は行き渋りもあり、やっと学園に到着してもすぐには活動に合流せず外廊下で寝そべっているなどしていました。ところが、今年は行き渋りもあまりなく基本的には学園での活動を楽しみにしているようです。これは何よりの成長だと思います。

去年と同じ担任の先生を中心に信頼感を築き上げていただいたようで、最近では「先生好き」と言葉にも出て驚いております。このような環境が安心して挑戦しようと思える土台となっているのでしょうか。おかげさまで、積年の課題であったトイレトレーニング、偏食の改善にも少しずつ取り組めるようになりました。

親でも子供のことはわからないことだらけです。特に、自閉症スペクトラムのような発達障害は特性一つ理解するのも苦労します。共に悩み、模索し、成長を促して、喜んでくださる先生方に感謝しています。

Aさん(在園2年)

親子通園の中で、色々な子どもの様子を知ることができて楽しかった。

我が子はこの2年間で、「ちょっと待ってて・ナイナイだよ・駄目だよ・あっち行くよ」など、分かることがとても増えたと思う。それが何よりうれしかった。

Nさん(在園1年)

令和7年度4月からの入園で一年間という短い期間でしたが、私はあすなろ学園が大好きになりました。親子通園の日は長女は小学校、次女は保育園の一時預かりを利用して息子と二人だけの時間を作ることができ、毎日どこか気持ちに余裕がなかったけれど、息子と理解して下さる先生方、同じ悩みを持つママ、パパさん達と過ごせてリフレッシュできました。大好きなブランコやトランポリン、リズム運動など思いっきり体を動かして楽しんでいる様子がまだ言葉は話せないけれど表情を見て伝わってきました。当初に比べてアイコンタクトが増え、「ちょうだい」や語頭、語尾だけ言える単語が多くなりました。リズム運動ではしゃがむ、お馬やどんぐり、正座などぎこちなかった動作が今では音を聞いてすらすらと反応できていて感動しました。また、毎日のおいしい給食で偏食が減りお家でのレパートリーも増えました。今後も息子との時間を作りたくさん“楽しい”を見つけて一緒に成長していけたらと思います。

カンガルー通園を振り返って



カンガルー通園では、親子での遊び合いを通して、わが子の好きなことや強み、苦手さを知ったり、保護者の皆さんと今のような関わりが大事なのかなど一緒に考え、お子さんへの理解を深めることを大事にしています。

今年度の参加者の皆さんから感想をいただいたので、その一部をご紹介します。

Hさん(2歳児)

4月に通い始めたときは3人だったので、集団生活に慣れるためにはもう少し人数がたくさんいる方がいいのかなと思っていました。ですが、最初に少人数だったからこそ物怖じせず元気いっぱい遊ぶことができたのだと思います。その後は徐々に人数も増え、順番待ちも少しずつできるようになって良かったです。

先生方がいつも全力で遊んでくださるので、声のかけ方や一緒に遊ぶときの方法などとても参考になりました。遊びの合間にちょっとした相談に乗ってくださったり最近の子供の様子なども聞いてくださるので、子供だけが遊んで学ぶ場というわけではなくて、親がホッとできる場でもあると感じました。

カンガルーに通うことができ本当に良かったです。

Sさん(2歳児)

子供との接し方、考え方を知るととてもいい機会でした。

また、子供が色々な人と関わることで子供の成長を見られたり新しい発見することができ、とてもいい体験でした。

物足りなさとしては、子供一人一人についてのアドバイス、家でもっとこうした方がいい。この子はこんな好み職員から見えてある。など親が気づかない具体的なアドバイスなどを、もっといただけると嬉しかったです。

Mさん(2歳児)

カンガルー通園で、先生方の子どもへの声かけや接し方がとても参考になりました。

10数えて「おしまい」や絵カードなどで次の見通しがわかるようになり、子ども自身が区切りをつけて行動できるようになってきました。

また、子どものできない部分ではなく、小さくてもできたことを見落としてしまいがちなので、成長を先生方のように、しっかり褒めて一緒に喜ぶ姿勢を大切にしたいです。

先生方の接し方を自分で実践してみることで、子どもの気持ちに寄り添えたり、上手く対応できる部分が増えてきたように思います。

たくさんの刺激を受け、笑顔が増えコミュニケーションが取れる場面が多くなり、嬉しく感じています。

Mさん(4歳児)

夏頃からカンガルー通園をさせていただき、最初は行き渋りもありましたが段々と慣れて今日あすなろさん？と聞くまでになりました。娘なりにあすなろさんでの居心地の良さを見出せたのだと思います。

通園にはわたしと夫と交代で通わせていただき、子どもとの遊びを通してやりとりの難しさやこんな風に声かけをしたらいいのかという気付きなどがありました。

職員の皆さまが娘ができなかったことができるようになっていくことへの声かけ、わが子へできないことを注意するのではなく、できたことを最大限褒めてくれるところがわたしはとてもうれしかったです。

そして、先生方が毎回わたしや夫の近況を聞いてくださったこともうれしかったです。

職員の皆さま、毎回あたたかく迎えてくださってありがとうございました。

4月より週5日間、お世話になります。

よろしく願いいたします。